

分 科 会

第一分科会 地域における子育て支援

話題提供： 森 玄枝（所沢市ファミリー・サポート・センター アドバイザー）

小俣みどり（清瀬市子育て支援事業 k-net 代表）

相浦 和行（小平市立大沼公民館 主査）

分科会参加者はそれぞれの地域の保育園の保育士のみならず、地域の子育て支援の活動の一翼を担っておられる方々を含めて63名の参加者で行われた。

話題提供者としては森玄枝氏（所沢市ファミリー・サポート・センター アドバイザー）、小俣みどり氏（清瀬市子育て支援事業 k-net 代表）、相浦和行氏（小平市立大沼公民館主査）で、それぞれの地域における子育て支援の取り組みについて報告していただいた。保育園での取り組みとは違った内容であるために、丁寧に解説を付け加えていただきながらすすめていただいた。

森氏からは、ファミリーサポートセンター事業は、地域において育児支援を受けたい人で行いたい人が会員となり、育児について助け合う会員組織のものであること、その育児相互援助活動業務の流れを図示していただいたうえで、利用状況の推移も紹介していただいた。地域におけるこの事業の取り組みとしては支援者たちの調整を行うセンターとアドバイザー、サブリーダーの役割が重要なことおよび交流会によって求められる内容の理解が深まることが話された。

小俣氏からは、母親支援を主とした子育て広場の開催を行政との協働の取り組みをその経緯をふまえて話された。参加する子どもたちは乳児期から幼児期まで幅広く、時間内に親子80組以上であるという。子どもと離れて15分間のコーヒータイムを楽しみにしてくる母親たちは、その時間

母親業からの開放タイムとして大変喜ばれているという。参加者が多いためにその時間を増やせないということも悩みのひとつという。運営について、子育てアドバイザー4名、保育サポーター6名の費用は清瀬市の子育て支援課からの支援をうけていくものの、多くの参加者を利用から参画を図りたいこと、子育ての社会化をどのように意識づけていくのかということが課題であるということも付け加えられた。

相浦氏からは小平市教育委員会の取り組みのうちの公民館を中心とした報告をしていただいた。小平の教育改革アクションプランから、公民館保育と子育て支援事業（保育つきの市民講座）など多岐にわたるものがあるという。多くの活動の企画運営のなかから見えてきたことでは、子どもたちの育ちの変容ぶりがあるという。地域で多くの関係機関との連携をどのように図っていくのかということが課題であろうと結ばれた。

参加者は保育園勤務の方々が多いということから地域の子育て支援について事業がどのようにすすめられているのかということが思いのほか情報として得られていないということがあったようである。自分の住まうところではない地域の情報を得たことで、改めて自分の住まう地域の事業内容を考えたいということも出された。行政のなかでの取り組みの実態が学べたということで、保育士としての役割を改めて考えたいということも出された。（佐々 加代子）

第二分科会 地域における幼稚園・保育園

話題提供： 喜多村純子（白梅幼稚園 副園長）

荒井 薫（あんず幼稚園 主任）

赤羽とも子（小平市立小川西保育園 園長）